

日蓮大聖人御書全集

たかはしどののにようぼうごへんじ

高橋殿女房御返事

新版
1961
〜
1962

たかはしどののにようぼうごへんじ

高橋殿女房御返事

けんじがんねん

がつ にち

さい くぼのあま

たかはしろくろうひようえ つま

建治元年('75) 7月26日

54歳 窪尼 〈高橋六郎兵衛の妻〉

うりひとこ 大角豆髭龍 枝豆 根芋 香瓜

瓜一籠・ささげひげこ・えだまめ・ねいも・こうのうり、

た そうら お

給び候い了わんぬ。

ふほうぞうきよう もう きよう

砂 餅 ほとけ くよう

付法蔵経と申す経には、いさごのもちいを仏に供養し

童 ひやくねん もう いちえんぶだい しぶん いち

まいらせしわらわ、百年と申せしに一閻浮提の四分が一の

おう あいくだいおう ほけきよう ほっしほん

王となる。いわゆる阿育大王これなり。法華経の法師品に

いつこう なか もう いつこう あいだ しゃかぶつ

は「しかも一劫の中において」と申して、一劫が間、釈迦仏

しゅじゅ くよう ひと くどく まつだい ほけきよう ぎようじゃ しゅゆ

を種々に供養せる人の功德と、末代の法華経の行者を須臾

くよう

くどく

比

そうろう

ふく

かれ

す

も供養せる功德とたくらべ候に、「その福はまた彼に過ぎ

もう

ほけきよう

ぎようじや

くよう

くどく

勝

ん」と申して、法華經の行者を供養する功德はすぐれたり。

みようらくだいししやく

い

くよう

もの

これを妙楽大師釈して云わく「供養することあらん者は

ふくじゆうごう

す

うんぬん

ほとけ

くよう

くどく

福十号に過ぐ」と云々。されば、仏を供養する功德より

そうろう

ほとけ

成

たま

うたが

もすぐれて候なれば、仏にならせ給わんことは疑いな

うえ

によにん

おんみ

あま

たま

そうろう

し。その上、女人の御身として尼とならせ給いて候なり。

もう

およ

そうろう

いよいよ申すに及ばず候。

ねんぶつしや

当

時

ただし、さだめて念仏者にてやおわすらん。とうじの

ねんぶつしや

じさい

くに

亡

たこく

なん

招

念仏者・持斎は、国をほろぼし、他国の難をまねくものに

そうろう

にほんこく

ひとびと

ひとり

にちれん

敵

て候。

日本国の人々は、一人もなく日蓮がかたきとなり

そうら

ぼんのう

たいしゃく

にちがつ

してん

責

被

当

時

候いぬ。梵王・帝釈・日月・四天のせめをかぼりて、とうじ

壺岐

対馬

そうら

のゆき・つしまのようになり候わんずるに、いかがせさせ

たも

たも

給うべき、いかがせさせ給うべき。

にゆうどうどの

ごしよろう

歎

い

そうろう

なによりも入道殿の御所労、なげき入って候。「しば

生

たま

ほけきよう

ぼう

よ

なかごらん

らくいきさせ給いて、法華経を謗ずる世の中御覧あれ」と

そうら

にほんこく

ひとびと

だいたい

生

捕

そうら

候え。日本国の人々は、大体はいけどりにせられ候わん

にちれん

にど

流

ほけきよう

ご

かん

ずるなり。日蓮を二度までながし、法華経の五の巻をもつ

頭

う

そうら

懲

そうら

てこうべを打ち候いしは、こり候わんずらん。

しちがつにじゅうろくにち

七月二十六日

ごへん

御返事

にちれん

日蓮

かおう

花押